

第 10 回（6/18 追加）モードの集会的操作 1 ——シンボリック相互作用（前回の補足）

受講取組みについて： 定期試験へのヒント（再掲）

- 説明の「内容」を理解しているか
- 説明を、展開・流れ・ストーリーとして理解しているか
- 理解した内容を何も知らない第三者に対して教えるつもりで、自分で説明できるか

1. BBS 投稿から

「社会的資源のパターン・機能・意味を学んで、商品を買うときに無意識のうちに行動しているなどと思った。」

「流行にいろんな作用があり驚いた。その作用によって普段の生活の一部になっていると思うと不思議な気分になった。」

「非シンボリック相互作用にもある他者の行為・身振り・発言によって喚起される直接的な反応とあるが、確かにファッション雑誌を見ていると「なるほど・・・」と感ずることがあり、刺激から反応になっていると思った。」

「…非シンボリック相互作用で説明できる現象（行為）としては、信号（青で進む、赤で止まる）や挨拶（挨拶された時に反射的に返す）があるのではないか。」

「私は雑誌を見て雑誌に載っているから、流行しているから着ようとすぐに思うのではなく、自分に似合うかや場面場面を考えて買ったり着たりする。これは、シンボリック相互作用なのかなと思った。」

「シンボリック相互作用は、例えばある服が流行りだしたときに自分がそれを好きか好きじゃないかなど解釈、判断してからその流行に乗るかどうかを決めることなのかなと思った。」

「私は非シンボリック相互作用の例として自分の好きな人がショートが好きと言ったから何も考えずに切っちゃうこと、シンボリック相互作用の例として好きな人にショートが好きと言われて自分に似合うか相談したら〔り〕悩んだりして切ることだと考えた。」

「一つの流行ではなく様々な種類、形の流行が生まれる理由にモードの集会的操作があるのではないかと思った。」

「アイテムのシンボリック的意味は個人の多様な解釈が可能であり、変化するものなのではないかと考えた。」

「アイテムのシンボリック的意味は、アイテムの側から提示されるというよりも個人が多様な解釈をし変わっていくもので講義でも実際にアイテムの事を聞かれた際、1つのものに対して人によって違う様々な印象が挙げられていてそれを実感した。」

「流行といえば 1つの解釈に大勢の人が賛同しその流行のものを使用することで賛同者が増える、というふうに流れのようなものだと思っていたのですが、どちらかといえば流行のものに1人が解釈を加え、さらにその解釈を見た人が解釈を加えるあるいは解釈を削ぐというように波紋的に広がるものなのかもしれないと感じました。」

過去の投稿より

「普段、買い物をするとときに直感で買うことが多いと思っていたが実はその直感のなかにも「パターン」「機能」「意味」が含まれていて、自然とそれらを意識した上で選択し、決定していることに気づいた。」

「昨日の講義で社会資源のパターン・機能・意味について何点かの例をあげて考える際、音楽についての例がなかったので疑問に感じたのですが、例えば「ロック」というジャンルの音楽の場合 パターン→激しい音楽 機能→テンションが上がる 意味→カッコいい といったようになるのでしょうか。」

「私たちは何かを購入するとき、社会的資源の外見的特徴などの認識をする「パターン」、どんな効果が得られるのか考える「機能」、自分の評価である「意味」を無意識の内に行っているのだと思いました。例えば白のフリルの服を見て、「かわいい、ステキ」と思う人もいれば、「派手すぎる」と思う人もいます。このように、モードとはあくまでも個人が社会的資源に対して主観的に読み取る属性であるため、人々が身につける衣服が異なり、人によって好みも異なるのだと考えました。」

「社会的相互作用について、シンボリック相互作用がモード操作の一連の過程で見られることから、流行品に対して各々が主観的に刺激に対して解釈していることは、多様な解釈を自由にすることが可能であり、以前の講義でも命題として挙げた『流行に流されることは没个性的か否か』という問いに対してより「消費者は各々の主観で多様な解釈をしているからこそ、没个性的ではない」と説明出来るのではないかと感じた。しかし、レジュメにもあるように、非シンボリック相互作用が見られる現象もあるため、一概には言えないのではないかとも思い、益々流行文化論に対して興味が深まった。」

「社会的資源のパターン・機能・意味について例をあげて考えたので、わかりやすかったです。物質資源や労力資源など、どのくらいそれらの資源に時間を使っているかを見ていくと、人々の個性がわかってくるのではないかと思いました。」

「シンボルと言うのは私たちの身近にあるのもシンボルかなと私は思う。シンボルは何かの意味をするものなら例えば東京のシンボルがイチョウの葉とか国旗もシンボルの一つでもある。日常生活だったら、衣類、公共の場、交通などに色んな注意を示すマークがあると思うんですけどそれもシンボルかな。」

「「シンボル化された意味」で例に上がったカバンは、確かに、モードが内蔵されており、ただのアイテムではないなと思いました。もし、単なるアイテムなら、モノが入ればそれでいいとなります。カバンでもたいして中身が入らない、本来の使い道を果たせないものもありますが、それにも意味が込められているため販売され買われます。流行は流れこそ切り替わりが早く単純に思えますが、とても奥深いものだ改めて思います。」

「シンボリック相互作用について、「他者との間で相互に、かつ継続的にシンボルを交換しながらそれらシンボルの意味を集合的に解釈」とレジュメにあり、確かにそうだと共感をしました。というのは、流行品（アイテム）において、自己解釈をし意味づけあいをすることもありますが、多くは他者との相互作用によってその流行品（アイテム）の要素（モード）を共有し内臓することで、初めて「流行品」がとして成り立つのだと思います。またそれは、その都度時代に見合ったかたちに変化し「流行品」ができ世に広まっていく、この繰り返しがなされていくと思います。また、物だけにかかわらず、人間関係にも当てはめることができると考え、とそれは例えば、自己のことを知る（いわゆる自己分析）ために、他者から自己の要素や情報を得る（他者評価）ことで、自己をみつけるための参考になるだろう というプロセスも、ここでは人間関係における一種の相互作用（相互行為）であると考えます。この例に関しては、違う意味合い・捉え方ではありますが、シンボリック相互作用に似たことであるのではないかと思います。」

2. モードの集合的操作 (再掲)

- 「**モード**」とは、人びとが社会生活のなかで採用する社会的資源（物質・労力・情報・関係・時間）の3位相（**パターン・機能・意味**）のことを指す

モードは、主観的な読み取りや意味解釈をつうじて、はじめて存立しうる社会的資源の属性

↓

流行 = * 社会的便益資源に対する個人間での集合的な意味解釈のプロセス
* モードの集合的操作のプロセス cf. 「集合的」⇔「個人的」

個々人の心理的内面過程を越えた、他者との相互作用という行動レベルでの終わりなき試行錯誤のプロセス

3. シンボリック相互作用論 (再掲)

H.ブルーマー：社会的相互作用についての解釈

非シンボリック相互作用 (=古典的パラダイム)

- 「刺激 - 反応」図式（「行動主義」理論）
- 暗示や模倣による社会的感染
- 個人：受動的。意識的かつ自省的注意を伴わず
- シンボルの意味を解釈する過程を媒介せず
- 他者の行為・身振り・発言によって喚起される直接的な反応

シンボリック相互作用

- 「刺激→解釈→反応」
- 個人：能動的。意識的かつ批判的な能力を発揮
- 他者との間で相互に、かつ継起的にシンボルを交換しながら、それらシンボルの意味を集合的に解釈

4. モードの集合的操作とシンボリック相互作用 (再掲)

- モード**操作**（選択・採用・破棄）は他者との社会的相互作用のプロセスを通じて展開される
- モードの「意味」の位相レベルにおいて生成と変容が生じる

↓

モード操作の一連の過程は、シンボリック相互作用の観点から説明することができる

cf. 「シンボル（象徴）」（第5回 復習）

あるものが他のものを代表（イメージ）するとき、その代表するもの（「あるもの」）

「あるもの」「シンボル」： e.g. 身ぶり、表情、図像、言語、文字、数学記号、音楽、暗号…

「他のもの」「イメージ」： …などによって示されるもの

「意味」

× アイテムそのものが表示する「明示的意味」

○ 「シンボル化された意味」。個人によって操作可能な意味

- たんなるアイテム（＝もの）ではなくて、シンボル
- 意味が込められたシンボル（「シンボル ⇄ 意味」の機能をもったアイテム）
- （各人の主観的解釈によってイメージされた）意味がシンボル（アイテム）に埋め込まれている
- シンボルと意味がセットになっている
- アイテムにモードが内蔵されている

↓

「モードの集合的操作」

=

「集合的」の意味

△ 自己と他者が、ある時空間に物理的に共属

○ 「社会的世界」への共属（意味の相互解釈と共有化）

cf. 「社会的相互作用 → 直接的な相互作用 と 間接的な相互作用

10. 参考文献

田中淳・土屋淳二、2003、『集合行動の社会心理学』北樹出版、第2,7章
H.ブルーマー、後藤将之訳、1991、『シンボリック相互作用論』勁草書房
G.H.ミード、稲葉三千男ほか訳、1973、『精神・自我・社会』青木書店
R.ウォーラス・A.ウルフ、濱屋正男ほか訳、1984、『現代社会学理論』新泉社、第5章
安田三郎ほか編、1981、『基礎社会学 第Ⅱ巻 社会過程』東洋経済新報社、第2章

11. 次回の予告

6月25日 モードの集合的操作 2 ——文化的コード

以上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9113.teacup.com/tenomoto3/bbs>

「シンボル」vs「アイテム」

- 他のものへの連想と結びつかない
- イメージが喚起されない
- ただ、そこにあるモノ。ただのモノ。

使用価値

□ 「あるもの」→ 「 **アイテム** 」 (たんなるモノ)



- あるものが他のものをイメージさせる

シンボリック価値

□ 「あるもの」→ 「 **シンボル** 」

「シンボル化された意味」?

「シンボル化された意味」

- たんなるアイテム(=もの)ではなくて、シンボル
- 意味が込められたシンボル(「シンボル ⇔ 意味」の機能をもったアイテム)
- (各人の主観的解釈によってイメージされた)意味がシンボル(アイテム)に埋め込まれている
- シンボルと意味がセットになっている
- アイテムにモードが内蔵されている

「モードの集合的操作」(=流行)

- 各人によってなんらかの意味が付与されたシンボルを媒介として、自己と他者が意味を相互に提示し、解釈し合いながら、自己 - 他者間においてシンボルの意味を共有化していくプロセス